



大和名記
第六
平群郡

2906
572

ル 4
4873
6



2906
572
4289

門
1873
卷 6

和州舊跡幽考目錄

第六卷 平群郡

青垣山

真事

栗毛馬の基

富小川

中宮寺 付 曼陀羅夏

舟基

班鳩里

法隆寺 付 釈迦二軀 ○ 五重塔土佛 ○ 山背大



法起寺 付 法用池 ○ 毎

瓦塚

法琳寺

高安里

駒基 付 調子丸墳事

調子丸家地

因可池

兄王○三經院○糸師堂○聖靈院事

法隆寺東院付夢殿○如意輪觀音○聖德太

子遺像○沉木香觀音○舍利○繪堂○

聖德太子○靈寶○炎上否實事

叶堂 付 蕨岳事 常樂寺

御廟 芦壩宮

新竜田社 竹原井

清水墓 菟馬墓

推坂 付 蕪莫者樂 ○仙香寺事

北園基 平群山

大野の墓

平隆寺

竜田山

○糸事

神南

浅小竹原

白手山

神邊山

紅葉川

三室岸

福貴寺

龍田付 藍觶交

龍田社 付 瀧祭神 ○神階

竜野

神南川

三田屋 付 垣津田池事

毛無毘

龍田川

三室山

奈良志毘

岩瀬杜付築事

立田園

龜瀬山付師無畏

信貴山付信濃園聖

大塔宮入御城跡 ○ 采尾事

小鞍峯付小倉寺 施鹿園寺

久土里付久土寺 惣持寺

額安寺付鎮守社 柏木杜

菅田池 伊駒山

伊駒神社 長屋王墓

鬼取 竹林寺

高安城 延喜式神名帳

和列舊跡幽考第六卷

平群郡

青垣山

景行天皇十七年西園子湯縣子行幸西

て丹蒙小野よあうび強ひ葉成んそをり

野中乃大石よのかりあして都成出ひ強ひ

乃日本紀 瑞清 山入乃こより 我家旁雲居た

ちの秋雲居立 やゆやハ園乃大和 園也 海知乃鳥服羽如

そららちりけ 青山並あて 多値山ハ大和 也 大和し

也 聖人 也 乃乃乃 壽師 聖人

そららちりけ 平群山倍々安留 へがりのやゆ

諸山之中指平群山者此子也天 日本紀よらん

余乎遠歷代而未也

註ハ秋日本紀よりなり

法起寺法起寺 小泉村乃南

法起寺又ハ池後寺又毘本寺ともいふ是池後寺

ハ聖徳太子法華經講説乃時頃師をくくあり

しヨ池乃蛙鳴声と吟トぬまハ講席といふ人

あく此とめ給ひしより法用池とすいあり

又池乃後乃寺あれとて池後寺と号し

後乃玉林後乃玉林そ乃池の辺草村ありて其名を計じ

又毘本寺といふハ人皇卅四代推古天皇十三年

聖徳太子毘本宮ありて法華經を講ト給ふ天

皇少くありあびありて懐磨園乃水田百

町太子よどり給ひしハ太子姓鳩寺よ給

ひゆりぬ日本毘本乃皇居の辺なれば寺乃

名とぞり但高市郡乃毘本宮ハ卅五代舒明

天皇二年よりめて毘本宮成とすまじく

日本日本異所同名あり

塔乃露盤銘文曰

上宮太子聖徳皇^壬之^午年二月廿二日監崩之

時於山代兄王勅御願旨此山本宮殿宇即處

專為作寺及大和国田十二町近江国田廿町

至^壬年福亮僧正聖徳皇御分敬造弥勒像

一軀攝立金堂至^乙年惠施僧正將竟御

願攝立堂塔而^丙年三月露盤營作^云玉林

▲京創ハ舒明天皇十年戊戌乃年あり

より凡一十五十余歳と雖好まハ堂舎仏園

とのけくろ朽こまきく観音一尊なり給

六年歲次戊子三百一十歲と云抄 玉林

圖小川

川上の平群山よりわく法隆寺乃東と

南よりわぐれ行

弁乳母集 万代とあるもの井水水やこの富小川のまがれ

拾玉集 志る記の河富小川乃まがれものく河道門屋の前相國公経

高安里

高安村あり長河内國乃高安里城あり

玉葉集 高安山麓乃高安乃里のまがれ寺と云上人

中宮寺

中宮寺

しるし乃後法隆寺乃東乃回中より法乃
ら乃後乃のまがれもの後乃法乃くくまて

為世の班鳩寺は良あり

中宮寺又の船屋寺又の法興寺抄 玉林推古天皇

三年上宮太子乃母后間人皇后乃由草創

又二臂如意輪乃像上宮太子乃聖德あり

年序りさるるく零落乃時文永年中河

内玉西林寺日澤上人乃再興その後西大寺

思因上人再興ありて真如庵と寺室とあり

當院より天壽園乃曼陀羅あり莊嚴微妙

ゆてわぐり小大後乃物る亀甲一百づり

つるより一甲小四字とわひありはより瑞應

子ありねり或上人乃速書よんころり

駒墓

聖德太子乃日驥駒怒鳴て水

以げくとも小寺... 蓮池... 院号ありり... 寺乃寺中あり

万葉... 班鳩乃ありり... 法隆寺... 寺領一千石

法隆寺又ハ七德寺又ハ聖國寺又ハ寶龍寺

又ハ來立寺又ハ法隆寺向寺又ハ鳥路寺又

ハ往生所寺... 法隆寺ハ剛明天皇乃ハ...

茶師の像と造... 延寶七年迄一千七十二年

延寶七年迄一千七十二年... 延寶七年迄一千七十二年

延寶七年迄一千七十二年... 延寶七年迄一千七十二年

延寶七年迄一千七十二年... 延寶七年迄一千七十二年

延寶七年迄一千七十二年... 延寶七年迄一千七十二年

延寶七年迄一千七十二年... 延寶七年迄一千七十二年

延寶七年迄一千七十二年... 延寶七年迄一千七十二年

延寶七年迄一千七十二年... 延寶七年迄一千七十二年

釋迦光後の銘文曰

法真元世一年歲次辛巳十二月鬼前大后崩
明年正月廿二日上宮法皇枕病弗愈于食王
后仍以勞疾並着於床時王后王子等及与諸
臣深懷愁毒共相發願仰依三寶當速救迦像
尺寸王身蒙此願力轉病延壽安住世間若是
定業以背世者往登淨土早昇妙果二月廿一
日癸酉王后即世翌日法皇登遐癸未年三月甲
如願故速救迦像守脇侍及莊嚴具竟棄斯
微福信道知識現在安穩出生入死隨奉三主
紹隆三宝遂共至彼片普遍六道法界含識得
脫苦緣同趣菩提使司馬鞍首止刹佛師造之
抄玉林

金堂儼然一七德寺と名づけけり西

あり北に講堂とくぬへく聖國寺とよぶ
鎮守の社須賀禰とて実龍乃寺あり南
よ法隆寺の寺乃門親とて金鼓乃二
口代りもこり上堂真院大湯屋伽藍若生
して松風宝鐸りりとけりれを法の一と
よのつらり

五重塔波女六路勸慈乃三三唯摩居士不
乃親法の相親迦濕盤花樹奈昆入權乃相
とをゆいて親他乃鳥乃はこりをるが只生
をる像乃物ゆらぬならりをもおがすれけり
山塔婆と徑生所寺也号する事と山塔大

元王少らびよ子歿此女五人西向小飛行し
て廻身誕生乃搭ありはあり玉林越
山背大兄王の姫為家あり相をり皇
極天皇二十一年癸丑我入康大軍以
率して富成園を攻めしを實の叔
三成一人當子乃勢とありし推せられ
味方ハ速に退れし貞久あそびし
をり為家あり山背大兄王馬骨と寝殿
よ投入園をせられし駿駒山よ入る也
わバ敵勝よ棄てて火焼をありし相
よりするが所乃呼よ自費ありしわ大兄
王自害とのありて園をよとせし
是大兄王五日と終く山と終ひし

後小倉にて我告とて入康を伐らん奉
わありともども我一身ありしとて
や悔らんや唯一般と入康を相ありし
此女とも終く入り終ひしを乃播蓋
種々伐不慮空り照るや此寺よ
人仰觀せむとありし入康の日本
播蓋如として黒雲と見えると
廻廊乃西の三徑院より安辰乃に
るぐはるりし寺乃安辰乃奉る三代
録よそよりゆり八軒室秋乃葉師堂ハ
乃其具太刀り子堂内よみり廻廊
の東乃聖靈院ハ依よ太子堂とありし

德太子之居りし所に沈水香城を造りて
 携政東帝乃遺像を西東兩院乃中
 門をひらきて來立寺と号し之を守
 屋建治堂乃之なり

隆寺東院

東院ハ斑鳩宮乃地なり 三代聖德太子出宮

乃後傳聞と云り 玉林斑鳩寺と号せり又ハ

龍僧寺又ハ龍寺と云あり 年氏

八角宮殿乃堂ハ夢殿又ハ上光院又ハ上

宮王院在り 聖德太子乃御宇と云は院建

轉乃事あり 大行信僧正建立あり又其

後退轉乃事あり 福貴寺乃道在津所

建立乃時八角乃堂ハ此なり 是ひり云り

會式ハ夢殿と聖德太子三昧定入を修し

表白ハ 衛山ハあり 前身ハ持乃法華經

と云り 奉り給ふは院あり 年氏ハ經を

給ト給ひしを乃冬十月廿三日 經を思

て行 西院と云 往生 或ハ 龍御より廿一

後 或ハ七年後 明あり 唯六子 後り云

本尊ハ二臂乃如意輪觀音と云 或ハ十一面

觀音と云 佛量ハ一尺一寸と云 或ハ俗

形ハ大刀と云 給ふものハいり 錦帳收

く 戸はあり 秘佛ハあり せハ日記と云り

▲沈水香木あり 聖德太子ハ聖作乃觀音著

薩あり多毎の正月十二日よは院乃南西子
か一寺と徳人持礼式を以て事少を傳り

治安三年よは堂入道殿道長よりて後

御礼記 始く東院の南門乃知りて是

大君の御名とハキをどみえん御殿までハハヒをえん

御殿臺よ納めて礼して法每禮も後殿よりもうつふは

舍利堂ハ護持堂とハハハ礼記 毎日午乃上刻よ

録ハ七声法く行りて舍利講とハハハ錦袋七重

とハハハ礼玉塔乃舍利とハハハ法万徳円満の

形ありつとせせ利益衆生乃光あざやより後

しよすは南無佛乃舍利ハ月乃報よ黒点一

つと想ト日々よ傳て十五息と後二十百

り日々り成トて世目ハ一点とてハハハ

南無佛乃舍利とハハハ其の終むるをハハハ

法隆寺ハ舍利乃此ハハハ乃終成ハハハ

く行りあるとし露の林ハハハハハハハハハ

走南無佛乃舍利とハハハ聖徳太子二歳乃春二

月十五日東よりむらひ合掌して南無佛と

唱させ給ひハハハハハハハハハハハハハ

後ハハハ舍利とハハハハ南無佛乃舍利あり

又佛法寂初とハハハハハハハハハハハハハ

利とハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

生中度ありて勝鬘夫人とハハハハハハハハハ

法就法よ旅衣とハハハハハハハハハハハハハ

よハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

世乃た眼乃舍利とハハハハハハハハハハハハハ

膝と肩一香花よはふ由序の終りより朝
まで合利のささるを終ふらんは奉授業
畧紀玉林抄通要ありびり七巻抄をどよは
のせりまされどもかざる意乃合利とひりあれば
あや日本紀平氏傳新書をどよはりたれり
きりうひとあやの軒よはり西よあうびり
繪堂あり武殿院と号して聖徳太子の一
生代金毘羅の業ありあうりよりあうり
縁久しうりまうりあうり海傍りを延寶三
冬河國高橋の庄山田氏心空とあり終り
とらあうり畫工よあうりて更よ縁久とら
きの依藍徳傳等ハ舊記よんてゆきども
廉毫よ堪ぐる畧一ゆりあり

▲聖徳太子ハ用明天皇才一乃皇子母后ハ元
徳部間人あり生あうり能言聖智ゆりて
此年のゆりあうり一度り十人乃新とさあ
めしてあやまうり終あ奉色あうり肉教ハ
あ乃惠慈と仰靴と一卯典ハ博士光野よ
あうりひ物りゆき給ふとに達し終りゆり
奉あゆ父乃天皇ハたうり海しりて宮
上殿よとんて終り上宮厩戸豊聡耳
太子とり又ハ厩戸皇子又ハ耳聡聖徳又ハ
豊聡耳法大王又ハ法至王日本又厩戸豊聡
耳皇子平氏と色りなりハ厩乃ゆりり
生まされ終り厩戸乃ゆりあり平氏ハ
平氏傳日本紀をどよんてり

▲靈寶ありし乃中子聖德太子乃此皮の
 題乃梵網經又義疏乃草本三經とも又獲
 我妹子が持来乃法華經は經乃事ハ水鏡
 平氏傳歎書其卯寺ありしころ舊
 史紀古事紀日本紀をどいんてぞ又鈴子
 あり賢聖勳あり

▲道詮法師奏言し海女法隆寺東院修理
 經びり忘日轉念切徳料後後いしり三代
 實深よあり

▲推古天皇十の年丁卯四月廿日
 年 庚午四月廿日 聖徳寺炎上 技業同十八
 二義虚説乃り 聖徳寺炎上 傳平氏
 ▲天智天皇八年十二月 聖徳寺炎上 日本

▲同九年四月夜事乃後法隆寺炎滅一屋も油
 録類聚國史百七十三卷 此とも寺僧乃曰法隆寺此記
 聖代ありしころいり

時堂

法隆寺より三十町なり 乾安の寺村あり
 傳聞安眠寺時堂ハ聖徳太子守屋大連と對治
 乃由書經しとやもいありしころ小多の安眠
 寺時堂乃在あり本宮ハ太子三行しり并とん
 結ハ觀音の像あり經て破撤去りしころ解
 脱上人舟具ありて後又久し年經ぬ事ば
 寺俗ありしころ一宮そのより傳り守屋大
 連討治乃由出陣乃官軍とそり久柳樓とあり

けを後ひり西と苗寺乃西の六町と強く旗
出と名はけく今もあり

常樂寺

法隆寺村乃巽右市場一宇くぬ兒を
がうのころくあり

常系ちハ聖徳太子四十六ヶ中建瓦を一つ
ありとひり

御廟

太子乃此廟より西へてくあり

御廟より西へてくあり

太子乃此廟より西へてくあり

芦壩宮

今目深抄曰聖徳太子乃此
より後り神屋と云ふ苗世神屋村あり

此の通東曰神屋と上宮と書と云ふ

乃右抄云く法隆寺より西の町なり

巽の方神屋村と云ふあり又聖廟神毫

の大安寺縁起と飽波宮と云ふあり

上宮玉院も芦壩宮と云ふあり

芦壩宮ハ聖徳大系宮ありて芦壩と云ふ

七巻より後り

新龍田社

法隆寺より六七町坪より民屋軒とつ

ねく新田乃町と云ふ

竜田比古竜田比女神社二座延喜

新龍田の推古天皇十四年二月十五日聖德

太子法隆寺と建始ひるん乃勝地と云ひて

巡行あり平群乃川より西坂乃東と云ひ

よせ後ひり新田の神老翁よ化しゆりて

伽藍乃勝地と云ふ人々色我又守護神と

あるんとの神誓あり則法隆寺の地是なり

は時神約よ竜田の祭礼よ法施乃僧三十

人なりあるんと云ひそまきよりたぐくはつりて

はとめりもこもるが五野と云は行をいしとて

変より法隆寺の鎮守新竜田の神とそ
視を記撰集抄

作原井西より一往変よありて

上宮聖德皇子出遊作原井也時見龍

田山死人怒傷御作執一首

家ありは妹が子ぬん草枕帯る物よりは縁あり

朝みく立物骨のを死よ色うりて山乃おまをぬん

中より石井の氷やあゆん新田の山ありて

藤塩草よ作原乃石井竹原山大和也

澄月秋枕り龍田山元

清水墓

新龍田より三四町南乃清水と云ふ所よ

清水山を田寺とて堂一宇塔一基あり

その二町をめぐり南の田中より行くあり是

清水墓の間に女王乃墓あり大和國平群郡菟

田乃清水よりあり延喜孝徳天皇乃后舒明天

皇乃皇女天智天皇御妹也 本紀

菟部墓 法隆寺西里也 乃道の北俗は陵と

ふあり是ありん

菟部墓の大和國平群郡菟田菟部あり

石取王女墓也 延喜

推坂 聖徳太子 依貴山乃北乃推坂ありて尺八と

行く通くを給あり其曲をり威とりの好され

山神より河ありのよりそれと天主寺は人

舞より流して流るるより種真者乃樂の

と也是あり 菩薩 の山神乃之あり仙香と

此建立あり 燈 益乃里よ今あり

北園墓 玉林抄曰 推坂乃水也の法隆寺より女所

づり西平群川の西あり

水園墓は大和國平群郡水園あり山背大

兄玉墓あり 延喜 聖徳太子乃所あり 日本

平群山 韓國の虎と 神とひげどりよ八頭と

りしてその皮とをくまよゆして八重疊

平群の山より四原とやみ原を給ふ

カ葉

平群山

平群の山より四原とやみ原を給ふ

得片ふる時おあし川のほし山よゆり
伊智比何本お畧

大野墓 西段

大野墓の太皇太后先大枝氏乃墓あり大野
平群郡あり延喜

福貴寺

玉林抄曰後志が平群里ありあり平
群乃里の推故乃水廣記名あり
福貴寺の道詮法師の末裔持乃法と傳と

らきし寺あり初と法隆寺ありて三輪
あび後もと自然禁とゆり貞觀十八
とりとと必と武列乃人あり

平隆寺

玉林抄曰樂益系ありあり樂益乃里は

法隆寺より女町なり西之野乃通也
平隆寺の推古天皇乃水遠又仲範曰持
統天皇よりく玉林抄十九卷あり

龍田

龍田と山平とむしうは雨よ雷神落てあり
平城とて童子とありたりもり

やしむひく子とありしむも夏乃初あり
隣村よとゆり所也どもは農夫が田のうよ
白西時くそく龍田とあり
おさあおあまきりきり後し童子の
とゆりひく水竜とありて天よのむれ
ゆる田と龍とぞ云けりとやぐそ雨の君と

竜田 竜田と云字 竜田の故 佐衣也 刺林 採葉

万葉 新田山

大伴の三乃三海の舟舟の如く 新田山と云 貞観

大伴乃由門よ進一 八雲 日 妹が細解と云まびく 新田山 今と云おまのこの如

風吹を伴津の波 新田山 新田山 今と云おまのこの如

は新伊勢 大和物 龍乃羽書 抄のた

大和物 人のむもめ 龍乃羽書 抄のた

りららのせてあげく 龍乃羽書 抄のた

もどりぬ 龍乃羽書 抄のた

物なり 龍乃羽書 抄のた

る 龍乃羽書 抄のた

女久し

新田川 龍乃羽書 抄のた

也らみく 龍乃羽書 抄のた

龍田社 社領十二石

新田本社 龍田社

龍田社 社領十二石

新田本社 龍田社

竜田 坐天御柱 国御柱 神社二座 延喜 式

竜田 坐天御柱 国御柱 神社二座 延喜 式

史記田明神乃由鎮座八天武天皇四年四月
 小紫菟法王小錦下佐伯連廣是とけり
 志のて新田乃立野よ風神と視後ふ又大山
 中曾孫韓大とて廣於乃以曲よ大忌
 神と祭りしめ後ふ日本抑は神ハ伴特祭
 伴特舞乃大八洲の國と坐後ひく後伴特
 諾言我所生の由唯朝勢のそありてあり
 とする由中と宣ひく別吹校乃氣代て神
 とする由号と級長戸邊命又曰級長津
 貴命神男是風神あり日本又飢一耐生後ふ
 と倉稻鬼命と日本又飢一耐生後ふ
 才一の社ハ東級長戸邊命日本又飢一耐生後ふ
 とハ甚新長一と日本又飢一耐生後ふ

字ありて邊ハ娘也女神よそまらより竜田
 娘とり
 才二社ハ東級長津彦命日本又飢一耐生後ふ
 字よして彦ハ男あり風神よそまらより又
 水も向社二座南り向社三座押方よ一座
 ▲新奈神又實山とよふ事ハ伴特舞伴特
 再言海と探緒ハ神乃天瓊予と納あり
 廣於新田神別同林異名ありて水氣の神
 あり故廣於新田乃神乃由是天御柱國御
 柱とり是天蓬乃守儀乃あり神又の院よ
 天瓊予の神突と意田よ納一とあり
 新奈實と由雲濯川系坐沖神也突殿は

あはれ地底より天送たりと納し神也
長き御祭仙宮と常世郷と号して是は
宮あり天地麗儀倭姫命世紀元長記纂疏天地
麗氣府深等祖凡く作事とも廉毫よ塔る
く畧しゆり

神階八身觀元月廿七日廣瀨神立回
神正一位と授給ふ式類八正一位立回大明神
と小野道周の筆也又三代實録より身觀
元月廿七日廣瀨神立回神正三位と
加へしり

余八天武天皇六年四月朔竜田風神廣瀨
大忌神とてあてまつり給ふ日本又大忌神風
神余並て四月四日七日四日あり本紀日之り

くは神祇令延喜式西宮抄等よりあり定目表
ら異あり當世八月十三日也風神祭二座
祝詞曰御者天乃御柱乃會國乃御柱乃
命止御者悟奉皇中畧竜田乃立野乃小
野乃若宮波定奉皇中畧公民乃他作物字
野乃荒水不相賜皇神乃成奉開賜者初
穗者穂乃高智穂膜浦雙氏十類八百
稲予稲引居置氏秋祭尔奉止延喜
式

壬二
行おに立野乃野の儀をりてをそん公心
り不系よ大和又武烈國よあり
本宮より三町余勅撰衣所よ倭國又丹

風よ海もまじり神をいふもてた劣景おまへ法師

毛無乃岳

万葉

神をいふ船をたの森の財を毛無乃岳の山にたて

神邊山

神邊山万葉集よりとまひ山と名あり三河

のりつ三室をいふ一神田山六西より三室山

に東もありゆいじりりは秋神田の三室

万葉

みのもろの神の山よりむくひ三室の山は秋秋の

山麓とよみよひつり鳴る

新田川

新田川

新田川

新田川をいふ神をいふ三室の山は秋秋の

辛酉

秋をいふ神をいふ三室の山は秋秋の

新田川

秋田の神田山よりとまひとよみよひつり鳴る

三室山

本宮より四所づり三室の神乃社と

新

三室の山乃りつり鳴る

三室山

神をいふ三室の山乃りつり鳴る

那良志田

三室山よほつり鳴る

新勅撰 國又祀倭國より同若

神あひ乃若水の流乃時多あり此電よつて天皇
草根又もあつたりちりりとうく本家宿ありして思代
奇統又もあつたりちりりとうく本家宿ありして思代
志所由也ぬる此都とうけりてあはれ電よつて長万

神南極より六所あり八雲出抄より大和國
越中 國同若

万葉 或土の石敷の流の霞る鳥今もあつた山乃常形
後撰 三田川よりあつた若とあつた若の柱のあつた
續 神あひの若水の流の霞る鳥今もあつた山乃常形
四月四日祭礼より若水は染とくらけは日神供
の真代とくらけは日神供
龍田 龍田 龍田 龍田 龍田 龍田 龍田 龍田 龍田 龍田

三田より河内國の通海より冥屋とあつた
ありけはあつた
天武天皇八月十一月竜田山より冥とらめて
まへらまへしとあり 死 日本

龜瀨越 越前國の南又往駒越等此河内國
の通海ハ聖徳太子のひりり此越前國
桓武天皇の東宮より色とせ給ひり
時龜瀨山の峯よりあそび給ひり師子長
の身忽とあつた大聖老翁の采女愛
し又本釈より後童子の形とあつた
つは先立鬘文殊童子の采女等定法
師を請礼して監事と我任河内國西林

寺よりありあり

佛法傳

信貴山村信貴の畑

拾芥新宇治拾遺寺より河内山と云

縁起よりいづく大和山と云は山あまの

境あり

信貴山觀喜院朝議園孫子寺の南山大明蓮

上人也新聖德太子官軍と引率して守

官軍三度破す信貴山より逃入り太子

由誓願丹心より作りしが山平より石橋ありしが

多門天の法ありしよりありぬく信貴と

後ひく白膠本ありて四天王像と云ふ

納りて更よ進まざるは信貴山の中とありて

老武者二騎忽然と味方よはせり

くの修羅もあざむくべに法ありし海立あり一人

と阿多大臣とめされ一人は坂本大臣とよみ給

ひしぐれが軍切ことととるふるまへ

守屋大臣と討たれど二長雲おき

どばねの交門天乃石繼の上より一丈乃殿

とく信貴山の昆洲門天是あり

も采敷よゆせありしものあり

宇治九行

▲信濃園小法師ある東大寺よりとりて受戒

して後信貴山よとこひなり

昆洲門厨子ありしお現ありてえ

堂とて人もあり

とらや宇津拾遺よりあり又後起より大體は由びら
より信貴畑乃りより信貴七強と云ふ所ありら乃
強の強なり

▲大塔宮を信貴山よまがうく其の由て後史
濃ありら乃り大平記よりくそり松永教臺乃
信山頂よのこま利

▲信貴畑の毘沙門堂より書置げり其書あり
毎の天焼拾遺の書よ傳るとそらりやけ
ありら乃りくそりあがやうよおよ海よりそ
ありら乃りいれより由そでの人く書拾ひ
きもぬれ朝よりは事往々の祝ものあり
ら乃り或人の毘沙門の經よ考あるよよ大寶と
あり入貪欲の人よ六日よ三夜寶と云れすはる

也といふものありら乃りまふとありら乃り乃相
くそなり信よ本の尾と云ふ

小鞍嶺

小倉寺として後乃小角の建立此後草堂
みち坊あり魁取と云ふ所ありりりり小
倉寺の立野より一里計乾乃方信貴山
よはり

春三月諸卿大夫等下郡波附強二首

白雲の龍田山乃龍の上小鞍嶺よありと云はる

及強

同
我志七日はら龍田山表勅はれと風よりれ
千五百番強
白雲の喜よりりりり龍田山と云はる
八雲山抄又井蛙抄小鞍嶺のやまあり

小倉山こくらやま不可混まじ祀まつ云々いふ小倉山こくらやまの山城あり

施康苑寺せこうえんじ 勢益せえきの里のさとあり

施康苑寺せこうえんじの聖徳太子河内由よ行ゆき乃の時とき後のち貴き

山の如ごと山やまゆりてて康やすのの里さとありあり乃の時とき後のち貴き

犬乃いぬの乃の時とき後のち貴き三さん味み定ぢやう入いるるをを後のち少すく

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

折をりりととあり

久く土ど里り 村むら久く土ど寺じ久く度ど社しゃ

勢益せえき乃の里さとありあり七八町しちやうはちちやう巽さむらい久く土どのの渡わた舟ふねあり

苑えん山さん法ほふ皇かう久く土ど乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

苑えん山さん法ほふ皇かう久く土ど乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

苑えん山さん法ほふ皇かう久く土ど乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

け色いろ乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

惣持寺そうぢじ

勢益せえき乃の里さとありあり十じゆ余よ町ちやう申まを酉うし惣持そうぢ乃の渡わた舟ふねあり

惣持寺そうぢじの年とし祥さむらい祿ろく乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

類安寺るいあんじ

御隆寺ごりゆうじ乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き乃の時とき後のち貴き

女立年上宮太子三昧定と云後ひく御世と云
 後傳法カありてさゆと云藤とせ傳やと後教村
 よ一乃精舎と云て後ひれ杖素王後推古天皇
 由類よあやと云後乃くさせ後ひくハ葛所乃
 像と云遠矣乃由就よありて由平後あり
 あとてめて頼安寺乃名あり玉林中具開山と云
 性律師鎌倉乃頼朝云の由飯依僧と云て開し
 ▲鎮守社ハ池の中嶋よあり推古天皇豊浦宮
 小所伝由くして小壘田の宮ようけりて後
 額田郡よあり由一は是額田郡乃皇女乃由和
 もく傳ありより額田郡の名あり頼安寺ハ推古
 天皇乃勅就あれハ天皇と後傳の社ハ祠はと云し
 あり玉林抄

柏木森 頼安寺の押十町づり

六帖 柏木の森乃り者も木も光河内の人と云のむ人此
玉吟集 常磐木ハ葛所りの神や人も念もあや此柏木 家隆
 或人のハ菅田池ハ柏木の森と云て一住ありあり
 ことと云云云と云とありえん一住ありあり
 元後人の所郡と云と云のこ

菅田池

二階堂村の南菅田村よあり像あり池と
 ありハ草麴字名所ハ大和國よあり
久安百首 菅田の池よみさかてと云やん
竟推僧都百首 菅田の池ハ此伝ハ云たが云ハ
龜山百首 菅田の池ハ此伝ハ云たが云ハ
 伊駒山

往馬

伊古麻

膳駒

延喜

射駒

伊駒

集

伊駒

建保

生駒

大和

河内

安

の表所

妹餅

馬鞍

射駒

越

越

越

越

越

同

長

長

長

長

長

長

長

長

伊駒

伊駒

伊駒

伊駒

伊駒

伊駒

伊駒

伊駒

草根

草根

草根

草根

草根

草根

草根

草根

往馬大明神社

船

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

往馬

長屋王墓

長屋王墓

長屋王墓

長屋王墓

長屋王墓

長屋王墓

長屋王

長屋王

長屋王

長屋王

長屋王

長屋王

長屋王

長屋王

長屋王

駒山

駒山

駒山

駒山

駒山

駒山

駒山

駒山

駒山

子

子

子

子

子

子

子

子

子

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

暗越

暗越

暗越

暗越

暗越

暗越

暗越

取山

取山

取山

取山

取山

取山

取山

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

鬼取

ら

ら

ら

ら

ら

ら

ら

ら

ら

と

と

と

と

と

と

と

と

と

そ

そ

そ

そ

そ

そ

そ

そ

そ

本

本

本

本

本

本

本

本

本

竹林寺

平群郡佐野山の麓

希王

大聖竹林寺の本尊は文殊大士行基菩薩の遺

影あり行基菩薩の遺影の郡菅原寺もく

寂ありくど色遠廻りゆせは堂乃下もく

めり草野仙房の母云乃佐和真院の墓

十廻光菩薩と号り作棟乃西の方の山

乃中腰よ般若岩屋あり

是より二十六町西乃山頂の南乃大道園

跡とて大和河内園地あり

高安城

当世河内山に安村ありし大和山

くりにて安村をゆりけるは但野の山

や後の人ゆざりて

天智天皇八年倭國を安乃城と云ひて

園の園地ありては地をどおさめ

天武持統乃安を安乃城と云ひて

其後大聖元寺もや始りて

大和河内乃安園もくあり

平群郡神倉帳神社二十座

竜田坐天御柱神社二座

竜田比古竜田比女神社二座

往馬坐伊古麻都比古神社二座

平群石床神社

平群坐紀氏神社

船山神社

久度神社

猪上神社

御搦神社

神島神社
伊古麻山口神社

牟羅神社
雲井寺坐楯本神社

和列舊跡幽考第六卷終

